



HOSPITALITY

SATISFACTION

PARTNERSHIP

INNOVATION

TASK

LIFE

病院・診療所のみなさまへ

城陽江尻病院だより 2022年10月号

- 当院の糖尿病教育入院について
- 透析患者さんの栄養指導に対する満足度向上を目指してほか

病院・診療所のみなさまへ

いつも当院をご利用くださり、誠にありがとうございます。オミクロン株による第7波もだいぶ落ち着き、経済活動の活発化が進められてきております。医療機関としましては、第8波の到来やインフルエンザとのW流行を想定しつつも、ようやく面会制限の緩和などを検討することができるようになり、ありがたい状況です。舵取りの難しさは残っておりますが、引き続き皆さまと手を取り合い、地域医療の維持・発展に貢献していければと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

当院の広報紙『城陽江尻病院だより』ですが、2022年10月号ができあがりました。今号の特集は、「当院の糖尿病教育入院について」と「透析患者さんの栄養指導に対する満足度向上を目指して」となっております。ご一読いただければ幸いです。

当院の糖尿病教育入院について

糖尿病治療において最も大切なことのひとつに、治療に対する患者さんのモチベーションを維持することが挙げられます。患者さんのモチベーションを維持するには、患者さんに糖尿病を正しく理解してもらい、患者さんひとりひとりの思いや生活環境に合わせた適切な指導が必要です。しかし、外来での指導だけでは不十分であり、入院したとしても血糖をコントロールしただけでは退院後にモチベーションが続かず、血糖が不安定になることが多いです。

そのため当院では、患者さんの病状や思い、要望、生活環境などに合わせた糖尿病教育入院プログラムを、約25年前から続けています。当院オリジナルの教本を用意し、医学の進歩に合わせて改訂を重ねています。当初は医師、看護師、管理栄養士で取り組んでおりましたが、現在は薬剤師、理学療法士、検査技師も加わり、多職種連携によるチーム医療で取り組んでおります。原則マンツーマンでの指導体制をとっており、患者さんに合わせて随時指導内容を変更し、きめ細やかな対応を心がけております。

入院期間は基本的に1週間で、主な内容は次のとおりです。

- 糖尿病についての総論の講義（医師&看護師）
- 糖尿病の合併症や足病変の講義（看護師）
- 食事療法の講義（管理栄養士）
- 運動療法の講義（理学療法士）
- 糖尿病薬の講義（薬剤師）
- 自己血糖測定体験と、検査の講義（検査技師）
- まとめと討論（スタッフ一同）

上記に加え、必要に応じて眼底検査、心臓エコー、頸動脈エコー、血圧脈波、下肢動脈エコーなども行い、合併症をチェックします。

糖尿病教育入院を行うことで、患者さんの糖尿病に関する理解度、治療の状況、合併症の状況などを短期間に集中的に共有できます。糖尿病は、診断後なるべく早期から適切な治療を進めていくことで、治療の効果が長く持続し、合併症を減らし、生命予後が改善すると言われており、これをレガシー効果と呼びます。なるべく早めに糖尿病教育入院を行うことで、レガシー効果が得られやすくなると考えられます。

退院後ですが、引き続き当院に通院される場合、主治医だけではなく、糖尿病教育入院を担当した病棟看護師や管理栄養士によるフォローがあり、退院後の状況の確認や軌道修正のサポートが行われます。当院に通院されない場合でも、希望に応じて管理栄養士による食事指導などを行っております。

当院は姫路でもっとも多く透析患者さんを診療している病院のひとつですが、透析患者さんの半分近くは糖尿病患者さんでもあり、糖尿病をコントロールすることの大切さを実感しております。それゆえ、より良い糖尿病教育入院を行なっていけるよう、日々努力しております。当院の糖尿病教育入院をご活用いただければ幸いです。



透析患者さんの栄養指導に対する満足度向上を目指して

栄養指導を受け入れて適切な食事管理行動をとる透析患者さんは、そうでない透析患者さんと比べて、死亡率が低いことが分かっています。よって、栄養指導をいかに受け入れていただくかということが大切です。我々は、栄養指導に対する満足度を向上させることで、透析患者さんの受け入れが良くなるのではないかと考え、栄養指導に対する満足度を向上させるための新しい施策を行いましたので、ご紹介させていただきます。

新しい施策を行う前に、まず満足度調査用紙を作成し、施策の前と後に満足度を測定するようにしました。調査用紙の詳細は以下のとおりです。

栄養食事指導の満足度に関するアンケート調査ご協力をお願い

透析導入目的で入院された患者さまからの栄養食事指導に対するご意見をいただくため、アンケート調査を実施しております。ご協力いただきましたアンケートは今後、透析導入以前から透析導入にかけてのより良い栄養食事指導の参考にさせていただき、患者さまのサービス等の充実に努めてまいりたいと考えています。お手数ですが何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

問1. あなたの性別と年代を教えてください。

- ・男性 ・女性
・10代 ・20代 ・30代 ・40代 ・50代 ・60代 ・70代 ・80代 ・90代

問2. 透析導入になるまでに管理栄養士による腎臓病の栄養食事指導を受けていましたか？

- A 継続的に受けていた ・ 何度か受けた B 一度受けた C なかった D わからない

問3. 当院で腎臓病の栄養食事指導を初めて受けられたのはいつですか？

- A 外来受診時 B シヤント作成で入院時 C その他で入院時

問4. 問3で「A 外来受診時」を選ばれた方にお聞きします。透析導入になるまでに栄養食事指導を何度か受けましたか？

- A 何度か受けた B 初回以後一度受けた C なかった D わからない

透析導入の栄養食事指導についてお聞きします。

問5. 今回入院中の管理栄養士による栄養食事指導に満足しましたか？

- A 満足 B それなりに満足 C どちらでもない D やや不満 E 不満

問6. 今回入院中の栄養食事指導では知りたいことや聞きたいことが聞けましたか？

- A 満足 B それなりに満足 C どちらでもない D やや不満 E 不満

問7. 今回入院中の栄養食事指導の内容は退院後実践しやすい内容でしたか？

- A 満足 B それなりに満足 C どちらでもない D やや不満 E 不満

問8. 今回入院中の栄養食事指導では管理栄養士はあなたの話を十分に聞いてくれていると感じましたか？

- A 満足 B それなりに満足 C どちらでもない D やや不満 E 不満

食事指導後の感想やご意見などございましたらお書きください。

回答が終わりましたら回答欄に記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。

記入が終わった用紙は管理栄養士が回収にうかがいます。ご協力ありがとうございました。

また、従来の栄養指導ですが、「指導前に食習慣チェックシートを用いて塩分、カリウム、リンなどに関する食習慣を確認する」「指導において、透析食の概要や基本的な注意に加え、当院の透析食で実際に行っている工夫を資料付きで説明する」「患者さんひとりひとりの退院後の注意点を検討し、1枚の用紙にまとめ、おさらいをしながら渡す」といった内容でした。これに加えて、新しい施策として「退院後の食事がもっとイメージできるように、患者さんひとりひとりの食習慣に合わせたメニュー例を盛り込んだ資料を作成し、お渡ししながら疑問や退院後の不安を尋ねる」というものを行いました（図1）。

結果は図2のとおりです。新しい施策を行うことで満足度は改善しました。しかしながら、思ったより手間がかかってしまったことや、診療報酬を算定できるケースが10%ほどしかなかったことが課題として浮上しました。効率化を図ったり、栄養指導の必要度が高い患者さんに行うようにするなど、さらなる工夫を続けてまいりたいと考えています。

弁当や惣菜を利用するときのポイント

注意点

塩分
米飯量

- ① ごはんは白飯にし、**150g**計量する。
- ② 弁当を利用する場合は米飯を**半分**残す。
- ③ 汁は控える。梅干し、漬物、佃煮類は避ける。
- ④ 1日の塩分量を多くても8gまでに抑えましょう（塩分：例 朝1.5g、昼4g、夕2.5g）

【朝食】



朝食のポイント

- ① パンは5～6枚切り1枚。ロールパンなら2個。
- ② 主食は食パンかロールパンなどプレーンのパン食に。
- ③ ドレッシングは白ドレかマヨネーズにしておく。
- ④ スープ類はつけない。

【昼食】



栄養成分表示
1食(400g)当たり

熱量:	612kcal
たんぱく質:	32.6g
脂質:	20.1g
炭水化物:	80.3g
食塩相当量:	3.16g

食塩相当量: 3.16g ← ここを見る！
推定値

昼食のポイント

- ① ご飯は**半分**残す。
- ② 外食やコンビニ弁当を利用する場合は塩分を4gまでにする。
- ③ 塩分が4gを超える場合はおかずを1品残す。
- ④ 漬物、梅干し、佃煮類は残す。汁ものはつけない。食べても具のみにし、汁は残す。

【夕食】



夕食のポイント

- ① メインを揚げ物にして、ソースや醤油は使わない。
- ② 副菜をサラダにする。ドレッシングはフレンチドレッシングや白ドレに！
- ③ 主食は**白ご飯150g**にする。漬物や佃煮、ふりかけなどご飯のおともは避ける。

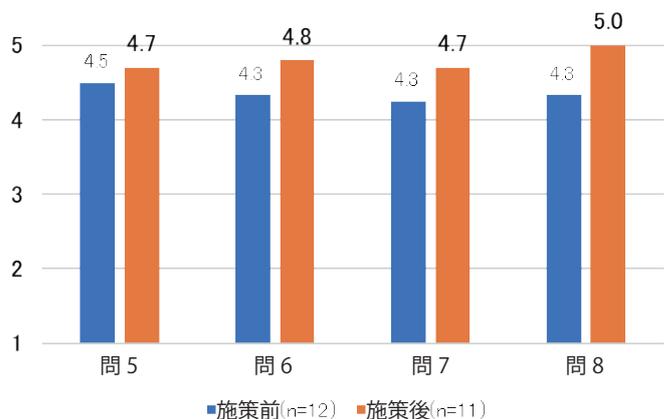
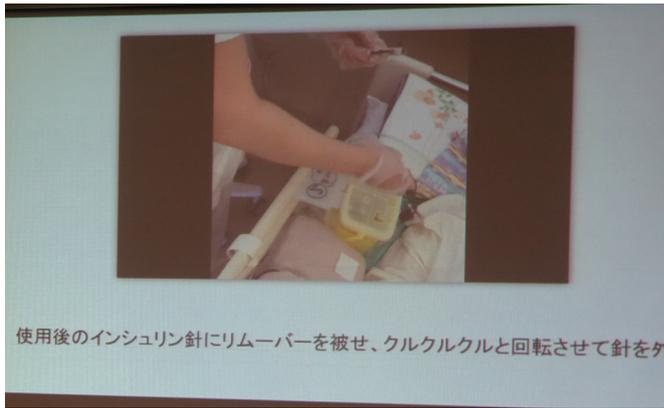


図2：新しい施策前後の満足度

図1：新しい施策として、患者さんひとりひとりに合わせて作成した資料例

感染対策 & 安全対策全体研修



(写真左) 2022年7月26日、感染対策全体研修が開催されました。今回は、「写真で見る院内感染」をテーマに、ラウンドで撮影された写真を供覧しながら、当院における感染対策の解説が行われました。正しい感染対策を身に着ける良い機会となりました。

(写真右) 2022年8月17日、安全対策全体研修が開催されました。「薬剤の誤認防止のための業務手順」をテーマに、関連部門から薬剤の適切な確認方法についての講義が行われました。あらためて「指差し、声出し」の重要性などを認識できました。

療養病棟でのリハビリテーション



リハビリテーションの一環で、療養病棟の患者さまとスタッフで、季節の果物である葡萄の工作を行いました。指先が動かしにくい患者さまも、一粒一粒スタンプで色付けしていただき、美味しそうな葡萄ができ上がりました。

患者さまのご予約方法

入院・転院のご依頼
外来診療のご依頼
上部・下部消化管内視鏡のご依頼

➔ **079-225-123**（地域連携課）にお電話ください。
担当医と調整の上、予約を入れさせていただきます。

CT・MRI・超音波・骨密度・マンモグラフィーのご依頼

➔ **079-225-1231**（放射線課）にお電話ください。

※ 受付時間は 8:30～19:00 となっております（日曜、祝日を除く）。

※ そのほかのお問い合わせは **079-225-1231**（地域連携課）にお電話ください。

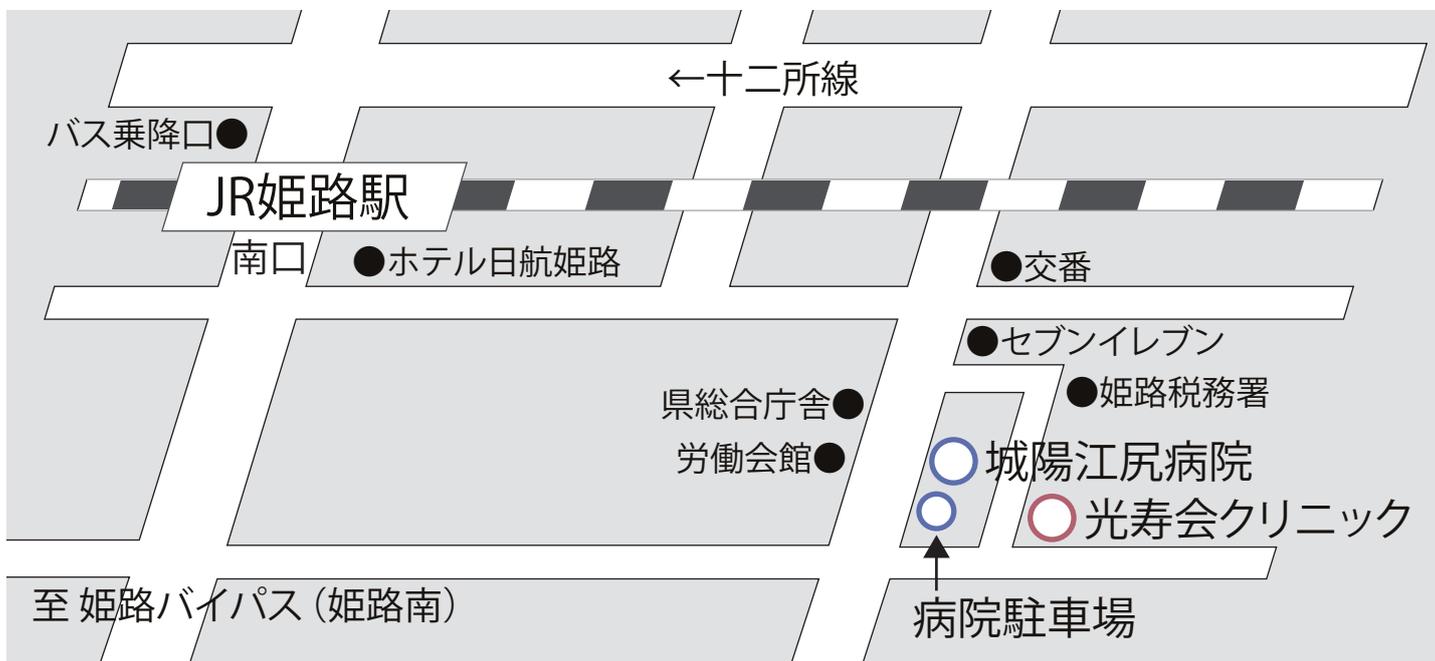
※ 上記お電話番号につながらない場合、**079-225-1231**（病院代表）にお電話ください。

ご予約後の流れ

患者さまに、以下のものをご持参いただくようお願いください。

貴院からの診療情報提供書（紹介状）
（CT・MRI をご依頼の場合は所見用紙）
健康保険証
当院受診歴のある方は、当院の診察券
（必要に応じて）貴院での血液検査結果、投薬情報

患者さまに、来院当日は1階総合受付にお越しいただくようお願いください。
スタッフがご案内いたします。



〒670-0947 兵庫県姫路市北条1丁目279
 ホームページ：www.ejirihospital.or.jp 代表 Tel：079-225-1231

Fax：079-222-0154

地域連携課

連携担当：大久保・竹内・濱野・中尾・
 飯田・小野井



EJIRI HOSPITAL
 城陽江尻病院